

【熊本県地方創生会議】「くまもと新時代基本方針」（素案）に関する御意見の概要及び県の考え方について

No	御意見・御提案の概要	県の考え方	取扱
はじめに			
1	ネーミングを「くまもと新時代共創」とされたことは、木村知事の公約「くまもと新時代を共に創る」を的確に表現しており、共感性を覚えると共に県民の目線に立った政策の立案が行われることを予感させるものであり、評価できる。	「くまもと新時代共創基本方針」のもと、“共に未来を創る”という視点に立ち、県民の皆様とともに熊本の更なる発展に向けて、県民が主人公の県政を推進して参ります。	参考
第4章 取組みの基本的方向性			
1 こどもたちが笑顔で育つ熊本			
2	【取組みの方向性】5番目に「」部分を追記してはいか が。社会変化に対応した質の高い「自律性を伸ばす」教育を推進します。	質の高い教育を推進する中で、「自律性を伸ばす」ような教育にも取り組んで参ります。	参考
2 世界に開かれた活力あふれる熊本			
3	【現状と課題】の記載内容について、特に農林畜水産業やスポーツ、文化振興に関する現状と課題に関する具体的な記載がなく、取組みの方向性に関する記載となっているように見受けられるため、それぞれの課題感が伝わるように記載されてはいかがか。	「スポーツや文化芸術の振興などを通じて、地域の魅力を更に高めるとともに、世界への発信に努めながら、国内外からの観光誘客にも取り組む」こと自体が課題であり、今後の取り組む方向性でもあるため、このような表現にしております。加えて、これらの課題認識を踏まえ、詳細な取組みを総合戦略に記載しております。	記載済
(施策1)「くまもとで働く」人材の確保・育成			
4	熊本県における人口減少傾向は、労働人口の減少につながり、社会資本、民間資本の維持にも影響をおよぼすものと考えられる。少子高齢化や若者の転出超過等に対するこれまでの対応だけで、どれだけ労働人口減少の歯止めができるかは疑問である。そのような中、台湾のTSMCの熊本進出が大きな転換点になることは間違いなく、今後、TSMC関連の企業群が本格的に進出すれば、半導体人材不足が顕著になると考える。その人材の安定的な供給及び確保が喫緊の課題で、下記の施策の検討が必要と考える。 (1)九州管内大学の理工系人材育成の連携（コンソーシアム） (2)高大連携や高専における半導体関連部門の拡大と人員確保 (3)台湾の大学及びTSMCとの連携（留学制度の拡充） (4)インターシップの導入企業拡大 人材育成は時間を要するため、産官学が一体となり、早期に課題解決に取り組まなければならない。 今後は意思決定のスピードを速めるとともに、施策の検証を行うためにも短期と中長期双方のKPIの導入が必要。	(1)コンソーシアム、(2)高大連携などについては、以下のとおり記載しています。 総合戦略 柱2 施策1 ①大学等と連携した人材育成 ・九州半導体人材育成等コンソーシアムや熊本県半導体人材育成会議などの活動を通じて、産業界、教育機関や行政機関等と連携しながら、半導体関連産業の人材育成と確保の取組みを推進します。 ・熊本県立大学において、世界トップクラスの人材を招聘(しょうへい)し、強みである環境や国際、DX分野で連携しつつ、半導体を活かした新たな産業創出に取り組むとともに、「地域に生き、世界に伸びる」人材を育成します。 ・熊本県立技術短期大学校において、半導体技術科を中心に、より高度な半導体関連の人材を育成します。 ・県立高等学校においては、地域(産学官)と連携したキャリア教育の取組みにより、地域社会で活躍できる人材の育成を図ります。特に、半導体関連の人材育成については、令和7年(2025年)4月に県立水俣高等学校に半導体情報科を設置するなど、半導体関連の基礎的な知識や技術を身につけた人材の育成に取り組めます。 (4)企業との連携については、以下のとおり記載しています。 総合戦略 柱2 施策1 ③様々な分野の人材育成 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大等を契機として変容した就職活動や働き方も含めた、様々な相談を身近に受けられるよう体制を整備するとともに、人手不足の現状を踏まえた企業の採用力向上の支援やマッチングイベントの実施により、雇用・就業機会の創出・提供に取り組めます。 人材育成は本計画における重点な施策の一つとなっており、台湾への留学など具体的な取組み等については、九州半導体人材育成等コンソーシアムや産業界とも連携しながら検討して参ります。	参考

【熊本県地方創生会議】「くまもと新時代基本方針」（素案）に関する御意見の概要及び県の考え方について

No	御意見・御提案の概要	県の考え方	取扱
(施策2)世界に伍する産業拠点熊本の創出			
5	九州各地に半導体の製造拠点が進出している中、九州全体の物流・人流が活性化していくことが見込まれており、地理的にも熊本県が中心的な交流拠点となることが想定される。 このことを踏まえ、熊本県が九州全体の発展をけん引していくとの視点を盛り込んではいかがか。	本県が九州全体の発展を牽引していく視点については、以下のとおり記載しています。 総合戦略 柱2 施策2 ①（インフラの整備） ・九州各県に所在する半導体関連産業の拠点をつなぎ、新生シリコンアイランド九州の実現に必要な人流・物流を確保するため、幹線道路ネットワークの整備を推進します。 基本方針 第3章 「本県には、半導体関連産業の更なる集積が見込まれ、これまで以上に日本の産業振興の一端を担う重要な役割が期待されていると言えます。」「アジアに近い地理的優位性等も最大限に活かしながら、これらの強みを更にステップアップさせ、世界に挑戦する県、『くまもと新時代』を目指します」 頂いた御意見も踏まえ、引き続き、九州のみならず日本ひいては世界へ貢献し、牽引していくという考えのもと、施策を検討・推進して参ります。	記載済
6	JASM第2工場が建設されるにあたり、TSMC、ソニー、デンソーに加えトヨタが新たに株主に加わったことから、半導体の更なる活用や用途の拡大が見込まれる。半導体が電子機器、自動車、医療、福祉、農業インフラなど工業以外の幅広い分野にも広がることが期待されることから、社会全体に波及する新事業創出の促進が必要であると考えます。	社会全体に波及する新事業創出の促進等については、以下のとおり記載しています。 基本方針 柱2【取組みの方向性】 ●産業面においては、半導体関連産業の振興を進めた上で、スタートアップ支援、中小企業・小規模事業者支援などを通じ、県経済全体の振興を図ります。 総合戦略 柱2 施策2 ②（起業・創業の促進） ・起業・創業が続々起こり、オールくまもとの産学官金連携により既存産業と新規起業家が互いに高めあう「くまもと版スタートアップ・エコシステム」を創出します。 総合戦略 柱2 施策2 ②（U×プロジェクト） ・医療、介護、健康、食、ビューティー、スマート農業など熊本の強みを活かせるライフサイエンス分野における新産業創出を目指し、変革する空港周辺地域における拠点施設整備を含め、人・もの・技術・情報が集まる“知の集積”を推進する「U×プロジェクト」を進めます。	記載済
7	・「世界に伍する産業拠点熊本の創出」という施策が挙げられているように、挑戦的な施策の推進をお願いする。	御意見を踏まえ、以下の記載をしました。 第3章 基本理念 世界的な半導体関連企業の進出を契機として、国際的な交流が加速する中で、アジアに近い地理的優位性等も最大限に活かしながら、これらの強みを更にステップアップさせ、 <u>世界に挑戦する県、「くまもと新時代」を目指します。</u> 柱2 【現状と課題】 <u>教育機関や企業等とも連携した人材の育成、確保に加え、質の高い生活環境、職場環境、研究環境などを確保し、海外からの人材の受け入れにつながる「選ばれる熊本」を実現します。そして長期的には、各種産業の成長により世界に開かれた活力あふれる地域となり、その魅力により県外・国外の人材が集まる好循環を目指します。</u>	反映
(施策3)「食のみやこ熊本県」の創造			
8	「食のみやこ熊本県」というキャッチコピーは魅力的だと感じた。（総合戦略も同じ）	「食のみやこ熊本県」は木村知事がマニフェストにおいて掲げたのが始まりです。 県では、本年10月、農林水産部と商工労働部が共管する「食のみやこ推進局」を新設し、「食のみやこ熊本県」の創造に向けた取組みを強化することとしています。	参考
(施策5)交通の利便性向上			
9	TSMCによる県への経済効果は計り知れないものがある一方、地下水への影響、交通渋滞、異常な地価の高騰等、長期的な課題も多い。未来に向けた県主体での対策の検討を望む。	地下水・交通渋滞など重要な課題については、県で推進本部等を設置しており、主体的に取り組むことを総合戦略に記載しています。	記載済

【熊本県地方創生会議】「くまもと新時代基本方針」（素案）に関する御意見の概要及び県の考え方について

No	御意見・御提案の概要	県の考え方	取扱
3 いつまでも続く豊かな熊本			
(施策1) 豊かな自然の保全			
10	「熊本県は、阿蘇のカルデラ、豊かな海、天草の島々など、多様で美しい自然環境に恵まれています。」等の記載があるが、都市部の自然である江津湖の自然保全についても触れていただきたい。	熊本の宝である自然環境の保全について、基本方針 柱3【取組みの方向性】に記載しているほか、江津湖については、総合戦略 柱2 施策4 ②（魅力ある観光地域づくり・誘客強化）に記載しています。地域資源を活かした魅力ある観光地域づくりのためには、その地域資源の保全が大前提であると考えています。引き続き、熊本の宝である自然環境の保全と、魅力ある観光地域づくりの両立に取り組んで参ります。	記載済
4 県民の命、健康、安全・安心を守る			
(施策3) 健康で長寿な社会の実現			
11	【現状と課題】で、「人と人、人と資源が、支え手と受け手という関係や、世代・分野を超えてつながっていくことで地域をともに創っていく地域共生社会を実現することが必要」という認識が記述されているので、これを受けて、【取組みの方向性】にも、日本一の健康長寿社会の実現とともに「（すべての県民が互いに尊重し支え合う地域を共に創る）地域共生社会の実現」を加えてはどうか。	御意見を踏まえ、以下の通り取組みの方向性を修正しました。 日本一の健康長寿社会の実現を目指し、医療・福祉・介護サービスの提供体制の確保とともに、健康寿命の延伸に取り組めます。また、 <u>県民が互いに支え合う地域共生社会の実現に向けた施策を推進します。</u>	反映
(施策4) 安全・安心の地域づくり			
12	【現状と課題】の下から2つ目の段落の「事件・事故被害の未然防止は不可欠であり、」の記述は警察関係（詐欺、窃盗、交通事故等）のテーマなので、次の段落に移した方がよいのではないかと。下から2つ目の段落は、「そのためには、地域における医療、福祉体制の充実、とりわけこれを支える人材の確保が必要となります。」としてはどうか。	御意見を踏まえ、以下の通り修正しました。 <u>そのためには、地域における医療、福祉体制の充実と高齢者が被害者にならないよう事件・事故の未然防止は不可欠であり、とりわけこれを支える人材の確保が必要となります。</u>	反映
第6章 施策を支える行財政運営、DXの推進、市町村との連携			
3 市町村との連携			
13	複雑・多様化する地域課題を解決するためには、県と市町村の連携と並んで基礎自治体である市町村間の連携も非常に重要であるものと考えます。「地域未来創造会議」等による県と市町村との実効性のある連携強化に加えて、市町村間の連携強化への支援についても、ご検討いただきたい。	御意見を踏まえ、以下の通り追記しました。 人口減少や少子高齢化が進行する中であっても、全ての市町村が持続可能な形で行政サービスを提供していく必要があります。そのため、市町村の現状や課題を踏まえ、地域の実情に応じた個性ある地域振興を支援し、各市町村の独自振興策を実現させるとともに、 <u>市町村間の広域連携についても支援して参ります。</u> 県及び市町村を取り巻く状況が大きく変化する中、複雑・多様化する行政課題に対応する上で、人材育成と人材確保の重要性が増しています。行政課題を解決に導く職員の育成と確保は、県及び市町村が持続可能な行政サービスを提供する上で不可欠です。そのため、県と市町村の人事交流など、様々な手法により互いの人材育成に取り組むとともに、職員の確保についても市町村と連携して取り組みます。	反映